

はりま病院広報誌

さらん

第19号

2015年10月 発行

編集発行

特定医療法人社団仙齢会
はりま病院 広報委員会

Step up!

整形外科部長 岡田 文明



平成25年にはりま病院へ赴任し、今年で3年目となります。当初、脊椎疾患の治療、電気生理検査による診断、スポーツケアという3本柱を掲げスタートしました。全手術件数は25年度114件、26年度189件であります。外傷に加え、脊椎手術は14件から26件、人工関節も14件から19件と徐々にではありますが、増加しています。脊椎手術は、顕微鏡及び経皮的な椎弓根スクリュー挿入を行い、低侵襲を基本に固定術でも約2週間程度で退院して頂けます。人工関節については術中関節内に局所麻酔薬を投与し、術後オピオイドという特殊な麻薬に鎮痛薬を加えた薬を処方することで、術後の痛み管理を十分に行い早期リハビリ介入が可能となりました。今後も患者さん個々のニーズに応え、早期退院し、自宅での痛みのない満足した生活を送って頂けるよう努めていきます。電気診断については、現在の磁気刺激装置による脊髄の中樞神経伝導速度測定および特殊な大円型コイルを使用した馬尾伝導速度の評価を行っています。さらにこの度、神戸市立医療センター中央市民病院神経内科幸原伸夫先生にお願いし、技師を同院生理検査室に派遣し、技術習得に努めました。これにより、末梢神経伝導速度検査もあわせて全身の神経の検査が可能となりました。外来にこられる四肢のしびれを主訴とした患者さんのうち絞扼性のみならず、増加する糖尿病性による末梢神経障害にも対応していきます。また青少年のスポーツケアについては、今年の9月から加古川医療センターリハビリテーション科柳田博美先生に毎週火曜日木曜日の午後6時から来て頂き、スポーツ障害及びスポーツ復帰までのケアを予約制で行うことになりました(詳しくは後述あり)。今後も日進月歩、専門性を持ちながら、技術のみならず医療体制もstep upしていきたいと思っています。



柳田医師(最前列左から2人目)と

スポーツ外来について

リハビリテーション課 野口 直樹

当院では、平成27年9月から、兵庫県立加古川医療センターより、サッカー日本代表のチームドクターを務めた経験のある柳田博美医師に週2回お越し頂いてスポーツ外来を始めました。スポーツによる障害を有した若年者の競技復帰を目標に、医師と理学療法士が共同で評価を行い、治療プログラムを立案しております。毎週火曜日・木曜日の18時～20時の時間帯（予約制）に行っておりますので、野球肘やテニス肘、疲労骨折、筋筋膜性腰痛症などを抱えながらスポーツを行っている方がいらっしゃれば、当院のスポーツ外来に相談して下さい。

やなぎだ ひろみ
柳田 博美医師

専門：リハビリテーション・スポーツ整形外科

出身大学：兵庫医科大学

認定医等：日本整形外科学会専門医

日本整形外科学会認定運動器

リハビリテーション医



スポーツに関わる整形外科疾患の治療に当たっては、

1. しっかりとした確定診断
 2. 適切な消炎処置
 3. 専門の理学療法士によるストレッチや筋トレの指導
- が不可欠です。

もう一点、すぐの手術適応とならないお子様達については、「出来れば放課後の時間帯に診てあげたい」と常々思い続けておりました。

この度、院長先生の御高配により、そんな思いを叶えて頂く事となりました。

皆様のご期待に添えますよう、スタッフ一同頑張っ
て参ります。

どうかよろしくお願ひ致します。





新人職員紹介



薬剤師 どい まき
土居 麻希

この度、5月16日より薬剤課で勤務させて頂いております。
今年薬剤師になり、まだまだ分からないことや戸惑うことが多いです。
しかし、優しい先輩方に恵まれ、日々丁寧にご指導していただき、充実した毎日を送ることができています。
先輩方から幅広い知識・技術をしっかりと吸収していき、早く一人前の薬剤師となり、患者様に貢献できるように日々努力していきます。
よろしくお願い致します。



医事 てらだ えり
寺田 江里

6月より、受付で勤務させて頂いております。
まだまだ不慣れなところもありますが、皆様のお役に立てるよう一つひとつの仕事を正確・丁寧にこなすことを心掛け、日々の業務に取り組んでまいります。
よろしくお願い致します。



医事 たなか ゆりこ
田中 佑梨子

この度8月3日より受付にて勤務させて頂いております。まだまだわからないことばかりではありますが、周りのスタッフの皆様丁寧に指導いただきながら日々過ごしております。医療関係の仕事はいままで経験がなく戸惑ってばかりで、皆様にご迷惑をおかけすることがありますが、“何事にも一生懸命で前向きに”を心掛け、少しでも早く皆様のお役に立てますよう、精一杯頑張っております。宜しくお願い致します。



准看護師 さとだ まき
里田 麻紀

6月より人間ドック室で勤務させて頂いております。
人間ドックは先生と色々な部署のスタッフの皆様協力させて頂いておりますので、早く職場の環境と仕事に慣れて、頑張りたいと思います。
よろしくお願い致します。



看護助手 まえやま ちえこ
前山 千恵子

この度、8月3日より2階病棟で看護助手として勤務させて頂いております。
病院での勤務は初めてですので、何かとご迷惑をお掛けする事がありますが、一生懸命頑張りますので宜しくお願い致します。

医療メディエーター認定資格を取得して

看護部長 倉持 恭子

はりま病院では、患者さんに安心して安全な医療を納得して受けて頂くために医療安全対策・感染防止対策とともに患者サポート体制を整え、大きな3本柱として力を注いでいます。そしてそこにメディエーターの存在が関わってまいります。

厚生労働省から推奨されている認定資格ですが、まだまだ馴染みが薄いと思いますので少し説明させていただきます。

医療メディエーターは日本語で医療対話推進者と呼ばれています。

日常の医療現場で患者さんご家族と、医療者側にくいちがい・衝突（認知的コンフリクト）があった場合など、中間的な立場で患者さん側と医療者側の対話を促進し関係を調整支援する。簡単にいえばこのような役割を担うものとされています。

患者さんとの対話時も、信頼関係を築きながら病院を背負わない、あくまで中間的立場で見えていない事情や思い・問題・苦悩に耳を傾け、隠された部分が浮かび上がるようになるまで両方の思いを傾聴し、医療者側との橋渡しをして行きます。メディエーターは非常に奥が深く多くのスキルを必要とします。

日常的に良好なコミュニケーション、そして患者さん側と向き合い誠実で親身な対応が大切とされているメディエーションの理念は、各医療施設でも研修を行い導入が試みられるようになってきています。スタッフレベルまでメディエーションが共有されると、日常の患者対応が改善され、苦情そのものが減少し、しいては医療安全の質の向上にまでつながっていくとされているからです。

当院でも日常診療を含め医療のあらゆる場面でその理念が浸透し、今行っている「患者さん中心の医療」がより一層深められるようメディエーターとして努力をしていきたいと思っております。

～外来担当表変更のお知らせ～

- ・ **金曜日の夜間診がなくなりました。**
- ・ **内科の夜間診が担当医になりました。**

外来担当表

平成27年10月1日現在

		月	火	水	木	金	土
午前診	内科①		熊谷				
	内科②	辻本	尾下 (循環器)	辻本	辻本	熊谷	担当医 (循環器)
	内科③	菊間	荒尾	菊間	菊間	菊間	担当医
	外科	柏木	奥谷	吉村衛	奥谷	柏木	堀内
	整形外科	担当医 開始 10:30～	岡田	熊西		岡田	担当医
午後診	整形外科				岡田		
夜間診	内科	担当医	担当医	担当医	担当医		
	外科	吉村衛	堀内	奥谷	柏木		

各担当医は、受付にてご確認ください。

変更箇所

編集後記

プロ野球もシーズン終盤になり引退のニュースが多くなってきました。最近の一流選手の引退年齢は軒並み40歳を超えています。日頃の専門家による健康管理や、食事等選手の意識の違いもありそうです。やはり一流アスリートは日々の心構えが違うのでしょうか…

井上